

新しいちようせん

沖縄ろう学校 4年 上地 功也

ぼくは、四年生になって路線バスで下校しています。三年生の春休みからお母さんとバスに乗る練習を始めました。練習の間に、お母さんがオキカカードとスマホを買ってくれました。ぼくは「かっこいい」と思って、とてもうれしかったです。

初めて一人で路線バスに乗った日、なおき先生がやぎ原バスでいまで見送ってくれました。一人でバスに乗ると、ちよつときんちようしました。「もろみバスでいにお母さんとデイサービスの先生は待っているかな」と心配だったけど、もろみバスでいでお母さんたちを発見すると、ちよつとうれしくて、ちよつとはずかしかったです。

練習を始めてから二ヶ月間は、デイサービスの先生にバスでいまでむかえに来てもらいました。でも、今は一人でバスをおりた後、デイサービスまで帰れるようになりました。

一人で下校できるようになりましたが、失敗した事もありました。おりるバスでいを通りすぎてしまったり、オキカのタッチがちゃんとできてなかったりした事がありました。その時、「やべえ」とあせりました。練習を思い出して問題を解決できました。

その後からぼくはおりるバスでいをまちがえないように工夫をしています。ぼくは、耳が聞こえにくいので、バスの車内アナウンスや、バスの運転手の声がよく聞こえません。補聴器をつけても、聞こえにくいです。なので、バスのモニターをチェックし

たり、外の風景をかくにんしたりして工夫しています。

また、路線バスに乗れるようになって、うれしかった事もありました。

七月のある日、ぼくが乗ったバスは満員でした。いつもは一番前の左側にすわっています。でも、その日はすわれませんでした。立ったままだとモニターが見えにくくし、外の風景が見えないので、ぼくはあせってしまいました。車内放送もいつもより聞こえませんでした。ぼくは「バスでいをすぎたらどうしよう」と思いました。

すると、高校生のお姉さんが「すわっていいよ」

と、ぼくに言ってくれました。お姉さんは、言葉だけではなく、動作も使ってぼくに伝えてくれました。不安だったぼくの気持ちには、雨が止んで晴れに変わるように、安心した気持ちになりました。

ぼくは、明るい声で

「ありがとうございます。」と言いました。

ぼくは、一人で帰れるようになったけど、いろんな人に手伝ってもらったり、助けてもらったりして、できるようになりました。なので、感しゃの気持ちを持って、これからも自分でできることをふやしていきたいです。